



命を守る 避難力

災害時、わたしたちの生死を分ける「避難」。全国で多くの尊い命が犠牲になった東日本大震災を機に、まち全体の防災意識が高まっています。意識が変われば行動も変わります。いざというときのための避難力を、さらに高めていきましょう。(13ページまで)

分析

東日本大震災にみる避難の状況

津波は同等と推定

12都道府県で計2万8千人以上の死者・行方不明者を出した東日本大震災。想像を絶する大災害は、久慈市にも深く大きな爪痕を残しました。気象庁が観測した久慈港の津波の高さは8.6㍎。市の調査では、久喜漁港で津波が推定27㍎遡上、市全体の浸水面積は約28km²となっています。観測地点によって違いはありますが、津波の高さは他の市町村と同等程度、浸水面積は37人が犠牲になった野田村以上と推定されます。一方、市の死者・行方不明

そろっていた条件

なぜ、こんなにも状況は異なったのでしょうか。整備中の湾口防波堤や防潮堤などの津波防災施設が機能したのに加え、海岸に平野が少ない本市。それは海岸部から高台までの距離が短く、津波から避難しやすい地形であると考えられます。

また今回は地震の震源地が三陸沖(宮城県東部)だったため沿岸南部より津波の到達が遅くなりました。わたしたちは避難する時間に多少の猶予があっただけでなく、他の市町村で大津波が押し寄せているという情報をラジオなどで得ることができたのです。施設に地形、時間、情報と条件がそろっていた本市。しかし最も肝心な「避難」が遅れていたら、人的被害は何倍何十倍にもなっていたことでしょう。今回の被害規模は、地域の皆さんの、すばやい避難に裏付けされたものだと考えられます。

《久慈市・津波の観測状況と人的被害》

- 久慈港…津波の高さ 8.6㍎ (気象庁観測)
- 久喜漁港…津波が遡上した高さ推定 27㍎ (市調査)


《6月3日現在の人的被害》

死亡	行方不明	重傷	軽傷
4人	2人	2人	8人

※死亡のうち1人は市外で被害

《県内他市町村との比較》

- 津波到達時刻 久慈市 15:32 (久慈港実測)
 - ◆宮古市 15:26 (気象庁観測点最大波)
 - ◆大船渡市 15:18 (同)
- 浸水面積 久慈市約 2.8km² (市調査)
 - ◆1km²…洋野町・普代村ほか ◆2km²…野田村 ◆4km²…大槌町 ◆5km²…山田町 ◆7km²…釜石市 ◆8km²…大船渡市 ◆10km²…宮古市 ◆13km²…陸前高田市 (国土地理院調査概略)



逃げなかった人 高台なければ被害に

久慈消防署 佐々木昭二 消防司令補

普段通りの避難では もっと被害が

久慈消防署 宮澤憲光 消防士長

現場の証言

見たことない早さ

大震災が発生した3月11日、大津波警報の発表と同時に沿岸地区1489世帯4300人に避難指示。消防職員と消防団員は、直ちに水門閉鎖と避難誘導に向かいました。

半崎方面の避難誘導を担当した宮澤憲光消防士長は、住民の避難状況を振り返ります。「大きく、長く揺れた地震で異常を感じたからか、避難は今まで見たことがないほどの早さでした。普段のような避難のスピードでは、もっと人的被害が大きくなっていたかもしれません。」

長内方面の避難誘導にあたった佐々木昭二消防司令補は、課題もあったと指摘します。「ほとんどの人が避難済みでしたが、中には防災行政無線で放送しても、私たちが避難を指示しても、なかなか逃げない人もいました。もし避難できる高台が近くになかったら、津波の被害にあっていたかもしれない。」